

私の歴史好き人生



あべさんじゅうろう
米沢市長(山形県) 安部三十郎
Sanjuurou Abe

米沢こども新聞

趣味というより好みの部類に入りますが、小さいころからの歴史好きです。米沢市に米沢児童文化協会という団体があります。そこでは米沢小中学生新聞というものを年に5号発行し、米沢市内のすべての小中学生に配布しています。昭和33年に米沢こども新聞という紙号で創刊して以来、現在までの56年間で320号を重ねました。小学生のころの私は、この新聞に連載されていた「郷土に光をかけた人々」という欄の熱心な読者でした。ちなみに、第1号で取り上げられたのは上杉謙信。2号からは直江兼統、上



5月3日の「米沢上杉まつり」で馬上杯を片手に行軍する筆者

杉鷹山、堀内素堂(ドイツの医学書を翻訳し、わが国初の小児科医学書として刊行)、雲井龍雄(幕末維新の志士・詩人)、前田慶次と続きます。市立図書館長や米沢女子短大の先生などが子どもたちにも理解できるようにやさしく、しかも愛と義のまち米沢にふさわしいメッセージを込めて書き継ぎました。市民から「市長はどこで歴史を勉強したのですか、大学は文学部ですか?」と尋ねられることもあります。胸を張って「米沢こども新聞」と答えています。高校生の時、上杉神社の宝物殿である「稽照殿」の維持会員になりました。2000円だったか、3000円だったか忘れましたが、年会費を払うと

フリーパスの会員証がもらえるのです。稽照殿には上杉謙信の馬上杯や「愛」の字が兜の前立てとなっている直江兼統の甲冑など、いわゆるお宝がたくさん収蔵・展示されていますが、私にとっては会員証を持っているというだけで十分満足でした。

歴史の道歩く

大学生最後の夏休み。思い出を作るべく、九州縦断徒歩旅行を決心しました。下関で

新幹線を降り、福岡、唐津、長崎、熊本、鹿児島と550kmを歩いて桜島にゴールする旅でしたが、福岡の元寇に備えた防塁、長崎のグラバー園、熊本の田原坂など行く先々で出会う史跡が何よりも楽しみでした。大学卒業後、米沢に戻ってサラリーマンになりましたが、この楽しさが忘れられず「歴史の道を歩く会」というイベントを年に一度主催し、新潟の海産物を米沢に運んだ石畳の残る越後街道や、昨年の大河ドラマ「八重の桜」の主人公一家も通った会津城下と米沢城下を結ぶ会津街道などを1泊2日で歩きました。歴史とウォーキングの結合です。そのころの私は趣味として「長距離徒歩旅行」を挙げていました。今から25年前、米沢市は市制100周年を迎えましたが、市民の自主記念事業として、歴史の道歩く会のメンバーを中心に上杉家の居城だった春日山城から米沢まで300kmを歩くイベントを企画しました。9月中旬の日曜日から次の日曜日までの8日間歩く計画でしたが、1週間仕事を休める仲間がおらず、やむなく発案者の私がか社へ有給休暇届を出し、父親に自分の仕事を引き受けてもらった農業青年と2人で春日山城を出発しました。現在の米沢市民の中には先祖が上杉の家臣で、初代米沢藩主となった上杉景勝に従って新

潟県から米沢へ移ってきたという人もたくさんいて、新潟の至るところで米沢人の足跡に出会いました。途中から続々とメンバーが加わり、20数名で上杉神社にゴールしました。

ひと味違う鷹山像

その後、会社を辞めて市長選に出、2度負けて3度目で当選しました。市長になってから3年ほど経って、読売新聞の首長アンケートがありました。行財政改革の成果や合併の進捗状況などを問うも



上杉鷹山像の前で史跡案内する筆者

のでしたが、最後におまけのように「理想のリーダーは誰か」という設問がありました。平成19年に全国の自治体首長に対して実施されたアンケートですから、覚えておいでの方もいらっしゃると思います。しばらくして、最後の質問結果が読売新聞に載りました。1位が上杉鷹山(146票)、2位が徳川家康(66票)。「しまった」と思いました。私は西郷隆盛と答えたからです。(ちなみに西郷隆盛は35票で5位)。上杉鷹山の地元、米沢の市長が鷹山の名前を挙げなかった。もちろん、常日ごろ、鷹山は尊敬していましたし、鷹山政治の今日の実践も心掛けてはおりました。しかし、選挙の立候補者アンケートなどで上杉鷹山の名を挙げる人が多いことから、「他の人と同じなのは嫌だ」という持ち前の天邪鬼根性(あまのじやく)が頭をもたげ、鷹山以外の尊敬する人物を挙げてしまったのです。米沢の市長が上杉鷹山を語らずして、いったい誰が語ると深く反省して、人よりも掘り下げた鷹山像、人とは違った切り口での鷹山像を語られてこそ、「人と同じではない」市長になれると考え、方針の大転換を図りました。まず、座右の銘を「敬天愛人」から「なせば成る なさねば成らぬ 何事も成るべき道を探す賢さ」に変えました。下の句は「成らぬは人のなさぬなりけり」を自分風に

差し替えたものです。団体客の史跡案内も時々していますが、上杉神社前に建つ鷹山の銅像前では「なせば成る」の歌が詠まれた背景やその精神を自分なりに実践してみることの大切さを話しています。昨年11月、キャロライン・ケネディ駐日大使の「父は上杉鷹山を称賛していた」という発言がありました。米沢訪問をお誘いする手紙に返事があつたことから、同大使の来訪が確実視されていますが、鷹山の偉業を的確に伝えなくてはと思つています。



筆者が作成した「米沢の歴史」シリーズ